

(別紙1-1)《会派用》

令和6年12月4日

狭山市議会議長

太田博希様

会派名

光と風

代表者氏名

田中寿夫



研 修 会 報 告 書

このことについて、別紙のとおり、報告がありましたのでご報告いたします。

(別紙7-1) 《会派用》

令和6年12月4日

代 表 者 田中寿夫 様

研修者(代表)氏名

丸橋ユキ



研 修 会 報 告 書

このことについて、次のとおり報告します。

1 期 間 令和6年11月15日～令和6年11月16日(1泊2日)

2 研修会名

三井マリ子講演会「世界で初めてできた女性シェルター」(宿泊プログラム)

3 研修会主催者

生活クラブ生協埼玉比企支部、比企支部連「ヌエック丸ごと存続」

4 開催場所

国立女性教育会館

5 研修会参加人数 1 人

参加者は次のとおり

丸橋ユキ

6 研修会スケジュール

11/15(金) 19:30～21:00 宿泊&ドキュメンタリー映画上映会

11/16(土) 10:00～12:00 カーレット体験会

13:30～16:00 三井マリ子講演会 17:30～意見交換会

7 研修会概要

別紙のとおり

(別 添)

研修会概要

研修報告（於・国立女性教育会館）
三井マリ子講演会「世界で初めてできた女性シェルター」
（+ 宿泊 & ドキュメンタリー上映会、カーレット体験会）
2024 年 11 月 15 日ー 11 月 16 日

丸橋ユキ



研修概要

本プログラムは、三井マリ子講演会を柱に、前日のドキュメンタリー映画上映会と当日午前中のカーレット体験会をプラスしたもので、ジェンダー平等推進のための啓発を目的とするとともに、現在、国の計画において存続が危ぶまれている国立女性教育会館を会場とすることで、同施設の現状と存在意義を再確認する意味も有している。

■ 11 月 15 日 19:30 ～

『姉妹よ、まずかく疑うことを覚え』上映会

女性解放運動に尽力し戦後は新設の労働省婦人少年局長として活躍した山川菊栄の、思想と活動の歴史を辿ったドキュメンタリー映画（2011 年、企画・山川菊栄記念会）。

女性の経済的独立と母性保護の両立、良妻賢母主義への批判などの山川菊栄の主張は、現代の課題にも通ずる。100 年前の女性によ

る訴えだと思うと彼女の論評はとても力強いものであるが、もし彼女が現代の日本の女性の状況を知ったら、何を思うだろうか。そんな感想を持った。

■ 11 月 16 日 10:00 ～

カーレット体験会

年齢、障害の有無に関わらずに誰もが楽しめる「カーレット」の体験会。狭山カーレットクラブまぜこぜの代表・堀充さん、堀なつきさん、それから同クラブのお二人にご指導いただいた。

初めて体験する人も多かったが、ルールも方法も難しいものではなくすぐに皆が楽しめ、参加者同士仲良くなることができた。手話での応援の仕方を教わり、盛り上がった。車椅子のかた、視覚障害のあるかたも参加され、サポートの仕方も勉強になった。カーレットを通じ、同じ場所で同じことに夢中になるこ



カーレット体験会



とでいろんな人がまぜこぜになって仲良くなれることが体験できた。

国立女性教育会館がバリアフリーの施設であることもよくわかった。

■ 三井マリ子講演会「世界で初めてできた女性シェルター」

元都議で女性政治研究家の三井マリ子さんによる映画『ダナーの家』（監督：メッテ・クヌートセン）の上映と講演会。映画は、「ダナーの家」の誕生までを記録したドキュメンタリー。

「ダナーの家」は、1981年にデンマーク・コペンハーゲンに開設された女性総合センター・女性シェルター。もともとは、19世紀に王妃・ダナーが貧しい女性のために建てた救貧施設だった。しかし、時代とともに居住する女性は減り、ダナーの家は1979年に財団により売却の危機に直面。そこで女性たちが立ち上がった。不法占拠し、寄付を集め、屋敷を取得することに成功。今では、たくさんの個室と、IT室、工芸室、喫茶室、休憩室、ホール、子どもの遊び場を備え、女性たちにとって安心と自立のための訓練の場となっている。

三井さんは2002年にダナーの家を訪れて、映画監督や女性運動家にインタビューをしている。

上映の後は、参加者による感想、意見交換が行われた。国立女性教育会館の存続を危ぶんで集まった参加者が多いため、ダナーの家の事例が琴線に触れたようで、ジェンダー平等への思いや国立女性教育会館での思い出、同館の存在意義、いかに利用促進していくかなどについて活発な声が飛び交った。

■ 国立女性教育会館（NVEC）について

国立女性教育会館は女性教育の振興などを目的に1977年に設置されたナショナルセンター。10ヘクタールの敷地に定員約350人の宿泊棟と1500人が利用できる研修棟があり、バリアフリー対応となっている。専門書を多く有する図書館は評価が高く、「泊まれる図書館」というキャッチフレーズもある。研修などに使われていたが、老朽化などを理由に国が撤去や機能移転を検討している。宿泊棟と研修棟は2030年度までに撤去する方針が打ち出されている。